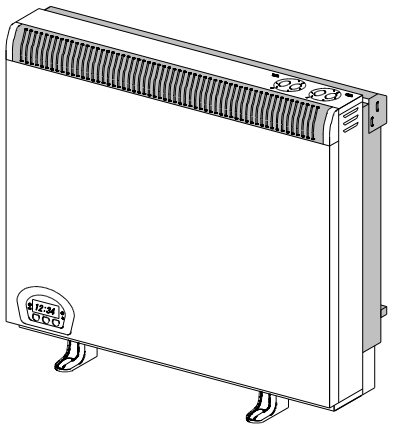
Dimplex®



電気蓄熱暖房器ユニデール

施工説明書

自然対流式（マイコン内蔵型）
WMEシリーズ

型番　WME 712JW
　　WME 718JW
　　WME 724JW

もくじ

ページ

施工前に

仕様一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
取付寸法図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
配線図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
配線工事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

必要なとき

設置場所を移動する場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
エラー表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

施工について

梱包内容の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
設置順序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
試運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

※施工される方へお願い

- この施工説明書の記載内容と異なる設置が原因で生じた故障及び損傷は、保証期間内であっても保証の対象となりませんので、正確な施工を実施してください。
- 工事終了後、施工説明書の内容を再確認し、“試運転”と“お客様への取扱説明”を行なってください。（お客様に安全・快適にご使用いただくために必要です）
- 工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡してください。

MA130019A　A5　14/07/03

仕様一覧表

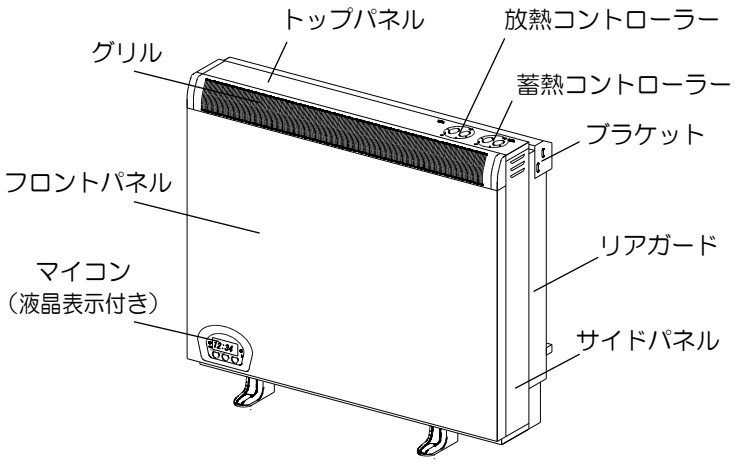
【 8時間蓄熱型 】

型　番		WME 712JW	WME 718JW	WME 724JW
定格電圧	蓄熱	単相AC200V（50/60Hz）		
	制御回路	単相AC100V（50/60Hz）		
定格消費電力	蓄熱	1,500W	2,250W	3,000W
	制御回路	5W		
シーズヒーター本数		2本	3本	4本
蓄熱レンガ数※（パック数）		8個（4パック）	12個（6パック）	16個（8パック）
最大蓄熱量		12kWh（10,300kcal）	18 kWh（15,500kcal）	24 kWh（20,600kcal）
有効蓄熱量		9.6 kWh（8,300kcal）	14.4 kWh（12,400kcal）	19.2 kWh（16,500kcal）
全重量（本体+レンガ）		77kg	110kg	145kg
外形寸法（幅×高さ×奥行）mm		560×671×192	788×671×192	1,016×671×192
200V配線用遮断器の定格電流		15A	20A	20A
200V屋内配線の最小電線太さ（銅線）	VVケーブル	直径1.6mm（2.0mm^2）	直径1.6mm（2.0mm^2）	直径1.6mm（2.0mm^2）
	CVケーブル	2.0mm^2	2.0mm^2	2.0mm^2
機能		時計、蓄熱タイマー、ピークシフト、追焚、チャイルドロック、データバックアップ		
安全装置		蓄熱温度過昇防止装置（自動復帰型・手動復帰型の2段階） 電源ヒューズ（2A）、転倒時電源遮断スイッチ（手前15°以上傾斜）		

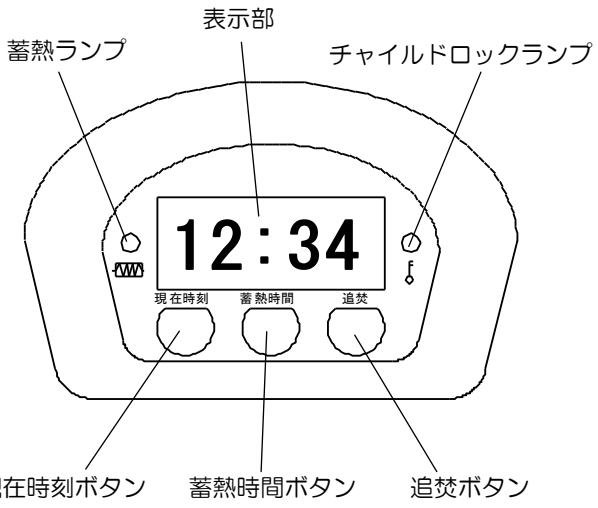
※蓄熱レンガサイズ（1個あたり）：幅 230 x 高さ 190 x　奥行 50mm

各部の名称

本体外観



マイコン



安全上のご注意

施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

● 表示内容を無視した時に生じる人身への危害、財産への損害の程度を、次のレベルに分類し説明しています。

⚠ **警告**：施工を誤った場合、死亡または重症を負う可能性が想定される内容です。

⚠ **注意**：施工を誤った場合、傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される内容です。

● お守りいただく内容の種類を、次の記号で区分し説明しています。

🚫 禁止図記号 ・・・・・製品の施工において、その行為を禁止する図記号。

❗ 指示図記号 ・・・・・製品の施工において、指示に基づく行為を強制する図記号。

⚠ 警告

～設置に関して～

❗ **据付工事部品は、必ず付属品及び指定の部品を使用すること。**
機器の転倒や火災・感電のおそれがあります。

❗ **アース工事を必ず行なうこと。（D 種接地工事）**
故障や漏電の時に感電するおそれがあります。

🚫 **本体部は、次の場所には取付けないこと。**
火災・感電・漏電のおそれがあります。
①可燃性ガスの発生する場所、または溜まる場所。
②付近に燃えやすいものがある場所。
③水がかかる、または常時湿度が高い場所。
④階段、避難口などの付近で、避難の支障になる場所。

❗ **壁下地補強材を施工の上、付属の転倒防止ビスと床固定金具で本体と床・壁を固定すること。**
地震などにより本体が倒れてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

～設置に関して～

❗ **取付作業は、専門の設置業者が行うこと。**
機器の転倒や火災・感電のおそれがあります。

❗ **本体を設置する床には、根太補強を施すこと。**
床が変形したり、転倒時電源遮断スイッチが誤作動するおそれがあります。

❗ **本体重量に耐えられる強固で、本体が傾くような凹凸がない水平な床に設置すること。**
床が変形したり、転倒時電源遮断スイッチが誤作動するおそれがあります。

🚫 **じゅうたん・クッションフロア・畳などの上に直接設置しないこと。**
地震などにより本体が倒れてけがをするおそれがあります。

❗ **本体付近の壁紙などは熱で変色しない物を使用すること。**
空気中の温度差によってできる上昇気流の影響による熱やほこりなどによって壁面が変色するおそれがあります。

❗ **背面の壁材の仕上げは不燃材を使用すること。**
火災のおそれがあります。

～配線に関して～

❗ **配線工事は、有資格の電気工事業者が行なうこと。**
感電のおそれがあります。

❗ **アースは、D 種接地工事（旧称：第３種接地工事）を行なうこと。**
感電のおそれがあります。

❗ **主幹には漏電ブレーカーを設置すること。**
異常時などの場合、漏電遮断装置を「切」にしないでそのまま使用すると故障や感電、火災の原因になります。

蓄熱暖房器それぞれに単独のブレーカーを設置すること。
異常時などの場合、ブレーカーを「切」にしないでそのまま使用すると故障や感電、火災の原因になります。

屋内配線の最小電線太さ及び配線用遮断器は、内線規程に従ったサイズ・定格値のものを使用すること。
火災のおそれがあります。

ケーブルは本体接続済みの耐熱ケーブルを使用すること。
火災のおそれがあります。

配線は、極力本体裏面に接触しない様に適切な長さで結線すること。
火災のおそれがあります。

ケーブル同士をよじるなどして結線しないこと。
火災のおそれがあります。

圧着端子（スリーブなど）を使用し適切に結線し絶縁処理を施すこと。
感電のおそれがあります。

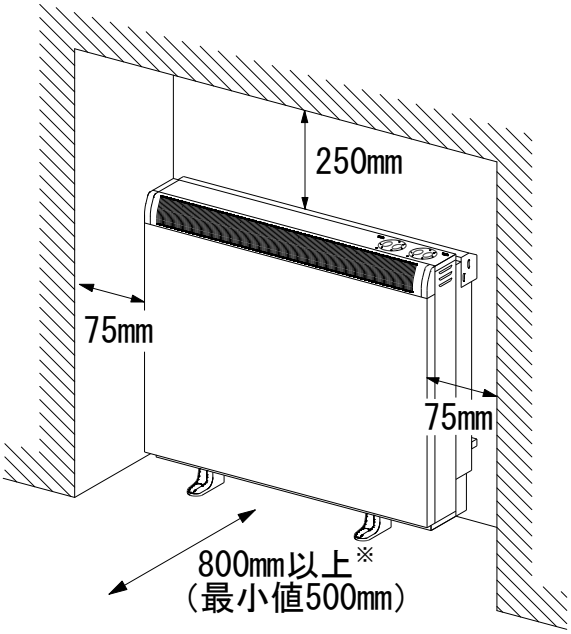
マイコン制御用として単相交流 100V、蓄熱用として単相交流 200V を確保すること。
本体故障や誤動作のおそれがあります。

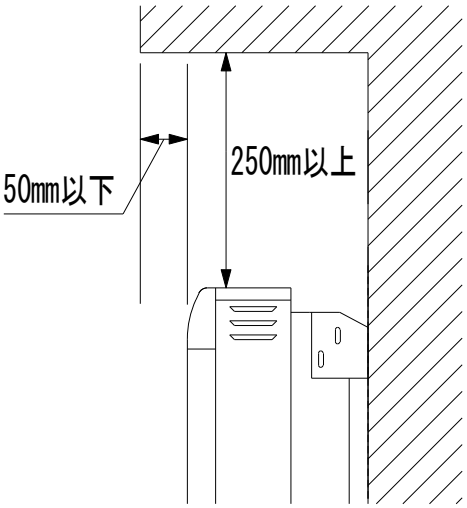
⚠ 離隔距離に関しての注意

カーテンなどの可燃物に対して以下の離隔距離を確保すること。
離隔距離は、正常に作動するために必要な最低限の寸法です。
周囲の仕上げ材などの変色・変形しないことを保障するものではありません。

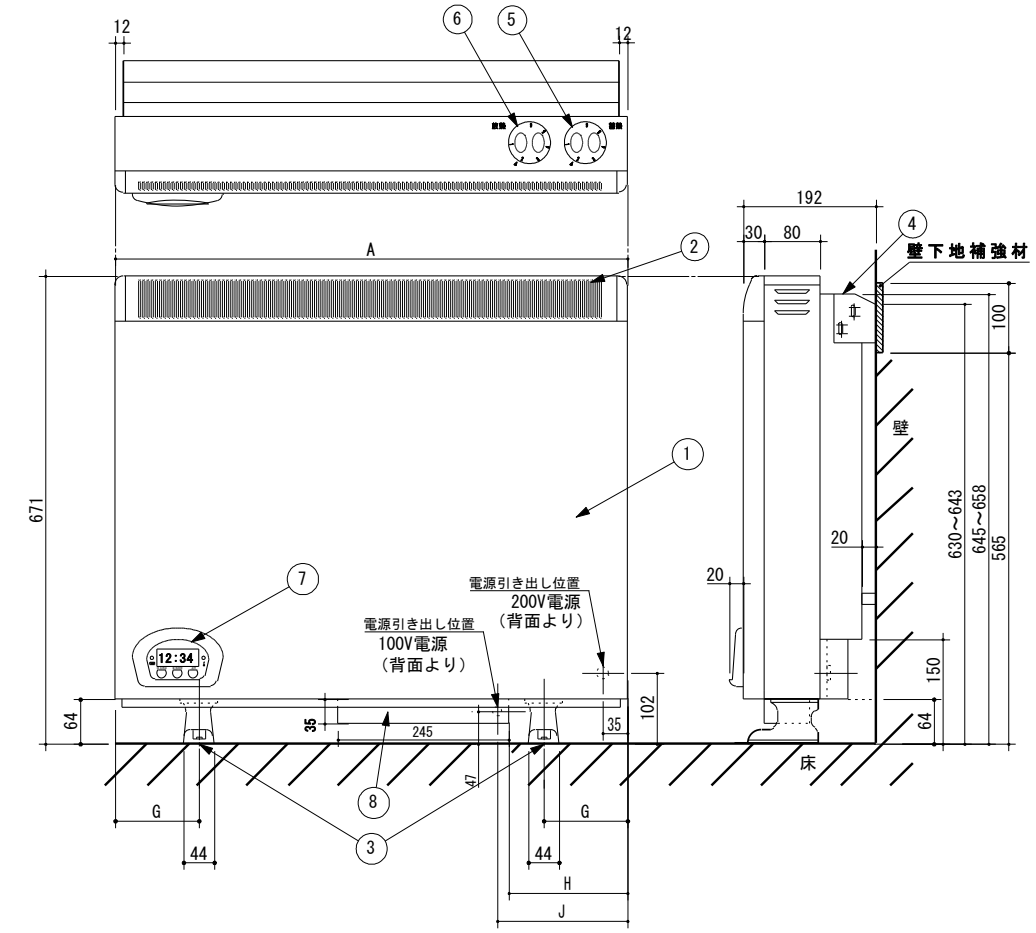
- 左右面方向・・・・・・・ 75mm 以上
- ならべて設置する場合・・ 75mm 以上
- 上面方向・・・・・・・・・ 250mm 以上
- 前面方向・・・・・・・・・ 800mm 以上※
  （最小値 500mm）

※メンテナンススペースとして必要です

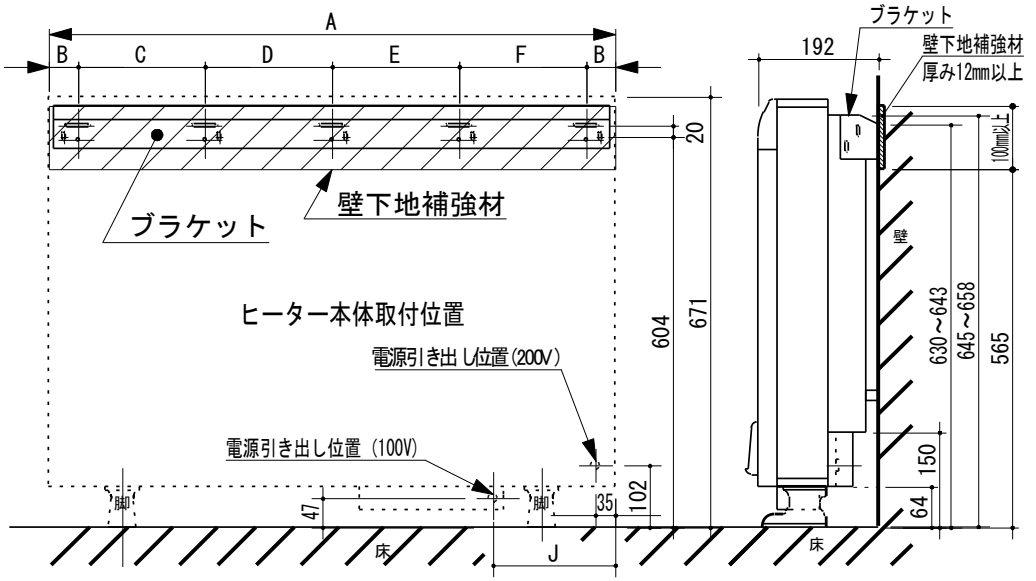




取付寸法図



No	名称
1	蓄熱暖房器本体
2	吹出グリル
3	脚
4	ブラケット
5	蓄熱コントローラー
6	放熱コントローラー
7	マイコン
8	電源回路基板



寸法表

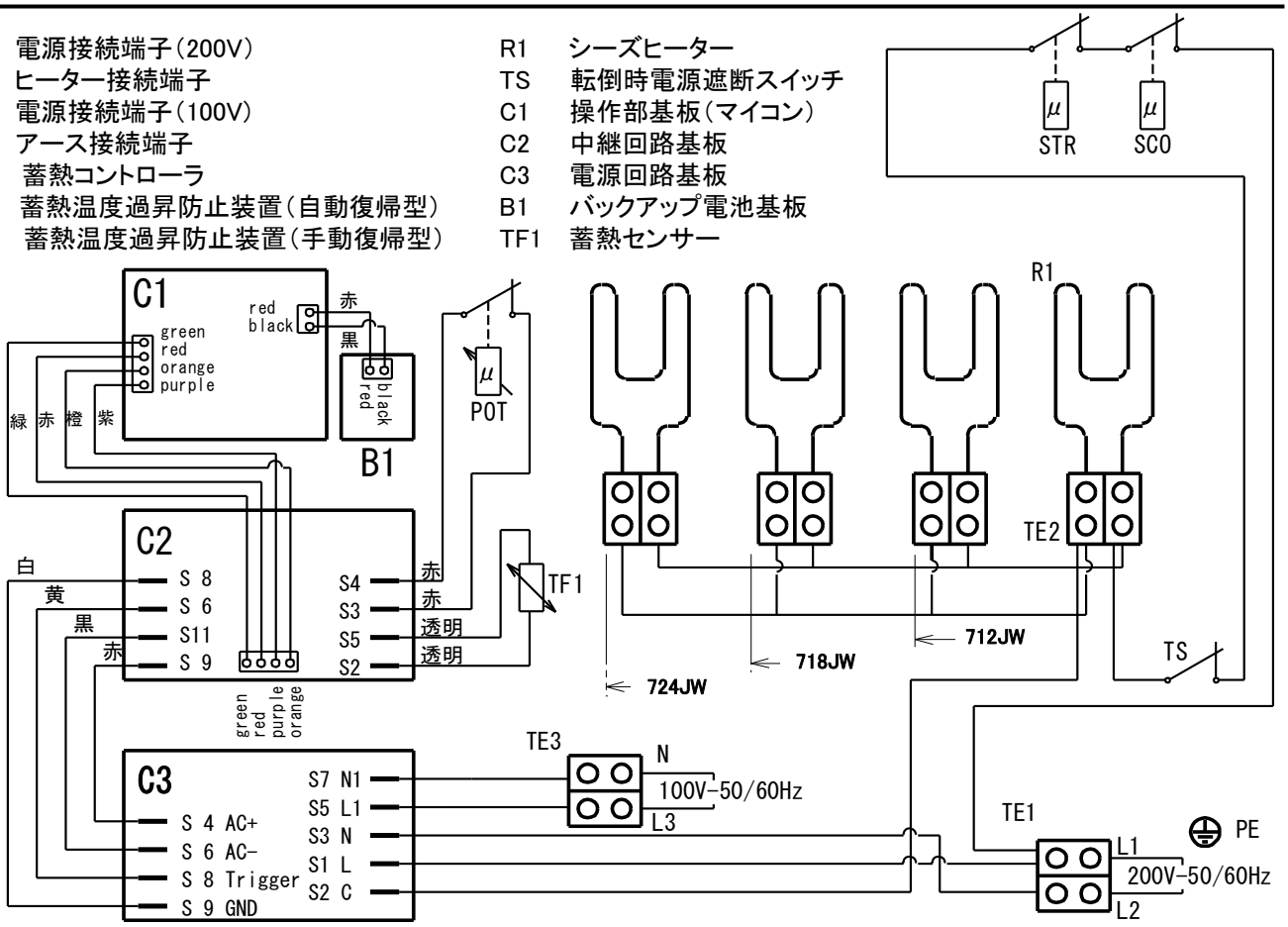
単位：mm

	A	B	C	D	E	F	G	H	J
WME 712JW	560	52	228	228	−	−	100	155	170
WME 718JW	788	52	228	228	228	−	130	170	185
WME 724JW	1016	52	228	228	228	228	260	345	360

※ 壁下地補強材は柱（間柱）などに強固に固定してください。

配線図

TE1　電源接続端子(200V)
TE2　ヒーター接続端子
TE3　電源接続端子(100V)
PE　アース接続端子
POT　蓄熱コントローラ
STR　蓄熱温度過昇防止装置(自動復帰型)
SCO　蓄熱温度過昇防止装置(手動復帰型)
R1　シーズヒーター
TS　転倒時電源遮断スイッチ
C1　操作部基板(マイコン)
C2　中継回路基板
C3　電源回路基板
B1　バックアップ電池基板
TF1　蓄熱センサー



配線工事

●配線工事をする前に、「安全上のご注意」（本書３・４ページ）をよくお読みになり、施工に関する安全が確保されていることを確認してください。

●幹線及びブレーカー容量について下表を参考にして選定してください。
（屋内配線は内線規程に従って配線を行なってください。）

～200V・１００Vケーブル～

ケーブル	型番	耐熱ケーブル				分岐回路の最小太さ		配線用遮断器の定格電流
		区分	サイズ	長さ	被覆色	VV ケーブル	CV ケーブル	
200V	WME 712JW	電源線	2.5mm²×2C	約 1m	灰	直径 1.6 mm (2.0 mm²)	2.0 mm²	15A
		アース	1.5mm²×1C	約 1m	緑/黄			
	WME 718JW WME 724JW	電源線	2.5mm²×2C	約 1m	灰	直径 1.6 mm (2.0 mm²)	2.0 mm²	20A
		アース	1.5mm²×1C	約 1m	緑/黄			
100V	全型番	電源線	1.25mm²×2C	約 1m	白	直径 1.6mm（2mm²）		

※　配線工事は、有資格の電気工事業者が行ってください。
※　電源ケーブルは本体背面右側から出ています。（5 ページ参照。）
※　アースは、D 種接地工事（旧称：第 3 種接地工事）を行ってください。
※　200V ケーブルの結線はコンセントなどを使用せず、直接接続してください。（内線規程）
※　電源ケーブルは、極力本体裏面に接触しない様に適切な長さで結線すること。
※　電源ケーブルの接続はジョイントボックス内で行ってください。

⚠ 注意

本体ケーブルと屋内配線の接続の際は、下記の事項に注意してください。
1．圧着工具はスリーブに適合した圧着ペンチ（ＪＩＳ適応品）を使用する。
2．圧着スリーブは、Ｐ型スリーブを使用する。（推奨）

作業名	蓄熱暖房器の配線	単位作業	電線の接続

1 スリーブ(P型)による電線の圧着接続

(1)電線のくせを直し、ワイヤストリッパ等で被覆をはぎとる。

(2)はぎ取る長さはスリーブ長さより約 10㎜程度長くする。

(3)芯線をまっすぐにして、スリーブを入れる。

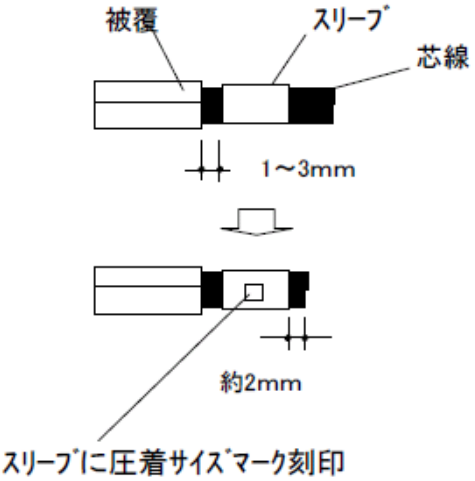
(4)圧着ペンチを強く握りしめて口を開き、スリーブを適合サイズのダイスにはさみ、
ペンチを軽く握りくわえさせる。

(5)接続する電線の先端をそろえて、スリーブに差し込む。
被覆までの長さは本数により 1～ 3㎜程度とする。
使用するスリーブは電線の本数・サイズにより適合サイズを選択する。

(6)圧着ペンチのハンドルを握り、圧力規制装置が外れるまで荷重を加え圧着するとハンドルは
自力で全開する。開かない時は、さらに強く握る。

(7)芯線をスリーブの先端から約 2㎜位残して切断する。

(8)絶縁処理は、ﾋﾞﾆｰﾙ絶縁ﾃｰﾌﾟ巻とする。




圧着ペンチ
（JIS適応）

2 適合スリーブ表 （参考）

蓄熱暖房器の耐熱ケーブル	屋内配線の電線太さ	P型スリーブ
2.5 mm^2	直径1.6mm(2.0 mm^2)	5.5
3.5mm^2	直径1.6mm(2.0 mm^2)	5.5
5.5mm^2	直径1.6mm(2.0 mm^2)	8
	直径2.6mm(5.5 mm^2)	14
	直径3.2mm(8.0 mm^2)	14
8.0mm^2	直径3.2mm(8.0 mm^2)	14
	14.0 mm^2	22

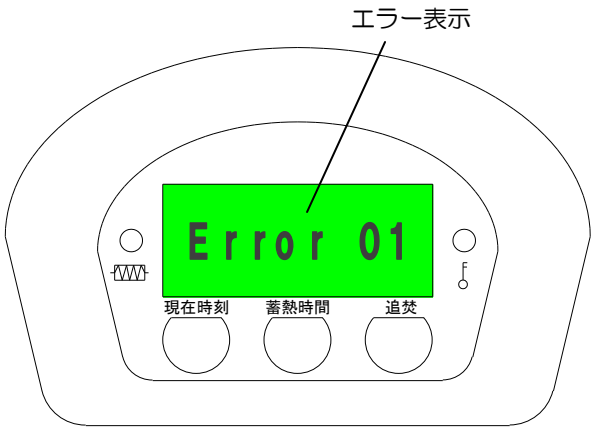
※接続の方法は、内線規定第 1335-7【電線接続】及び
1335-8【電線接続の具体的方法】1-③-f.「直線重ね合わせ用スリーブ(P 型)による接続」による。

設置場所を移動する場合

本商品を移設する場合は、再度、９～１３ページ「設置順序」、１４～１６ページ「試運転」を行い、機器が正常に作動するか確認を行なってください。
移設の場合は、特に断熱材を破損させない様に注意してください。

エラー表示

暖房器に異常が発生した場合、エラー表示がされます。



状　況	原　因	処　置
表示部が 表示しない。	100Vが通電されていない。	100Vを通電してください。
ボタンが 効かない	チャイルドロックがされている。	チャイルドロックを解除してください。 （→取扱説明書参照）
Error 01	蓄熱コントローラーの異常（最大値異常）	誤設定が考えられますので、 販売店にご連絡ください。
Error 02	蓄熱コントローラーの異常（最小値異常）	
Error 03	蓄熱センサーの異常（最大値異常）	
Error 04	蓄熱センサーの異常（最小値異常）	

梱包内容の確認

① 下記の付属品が全て揃っているか確認してください。

1)取扱説明書（保証書付）
2)施工説明書（本書）
3)ネジセット ※1
4)脚
5)耐熱ケーブル 100V（本体接続済み）
6)耐熱ケーブル 200V（本体接続済み）
7)ブラケット固定ネジ ※2

② 蓄熱レンガの個数を確認してください。（別梱包）
2ページ「仕様一覧表」参照

※1．ネジセット



※2．ブラケット固定ネジ



設置順序

●本体設置をする前に、３・４ページ「安全上のご注意」をよくお読みになり、補強材・不燃材の使用、離隔距離の確保など、施工に関する安全が確保されていることを確認してください。

●蓄熱暖房器は大きいもので約 150kg となります。本棚・ピアノもこの程度の重さがありますので、本体を設置する床には重量家具同様の根太補強をしてください。

●可燃物（じゅうたん・クッションフロアー・畳など）の上に直接設置しないでください。以下のような不燃材を蓄熱暖房器よりひとまわり大きくして敷き、その上に蓄熱暖房器を設置してください。

- じゅうたんの上 ・・・・・・ 10mm 以上の強固な不燃材の敷板
- クッションフロアーの上 ・・ 厚さ 10mm 以上の珪酸カルシウム板
- 畳の上 ・・・・・・・・・・ 板畳

●背面の壁材の仕上げは、準不燃クロス、石膏ボードや珪酸カルシウム板などの不燃材を使用してください。

レンガ積込み作業の前

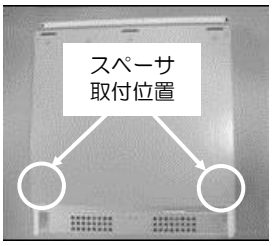
1 脚２個を、本体底面にネジで固定します。

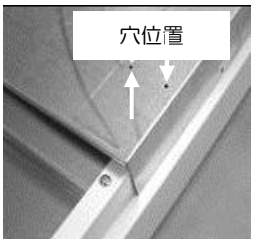


※ 本体底部に付いているネジを、脚固定用に使用します。
（脚１個あたりのネジ数は４本です。）

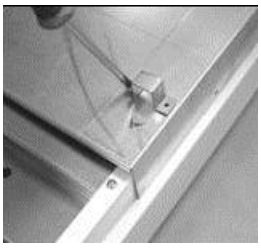


2 本体背面にスペーサ（２個）をスペーサ用ネジ（４本）で固定します。

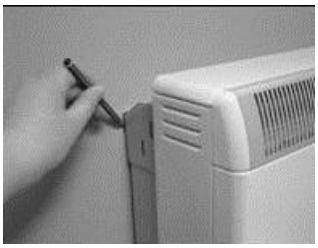




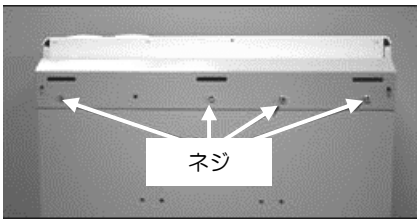
スペーサ取付け



3 取付ける位置に本体を置き、ブラケットの端２箇所に印を付けます。



4 本体背面のネジ（４箇所）を外して、本体とブラケットを分離させます。



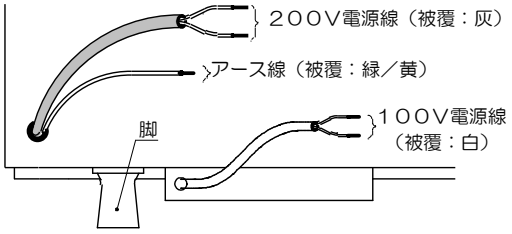
※ ネジは後で使用します。

5 壁に付けた印２箇所に合わせながら、ブラケットを壁に固定します。（キリでネジ穴をあけてから、付属のブラケット固定ネジで固定します。）



＜ネジ使用数＞
712JW：３本
718JW：４本
724JW：５本

6 ２００Ｖ，１００Ｖの電源ケーブルの配線接続を行ないます。（６ページ「配線図」参照）



本体背面より見て

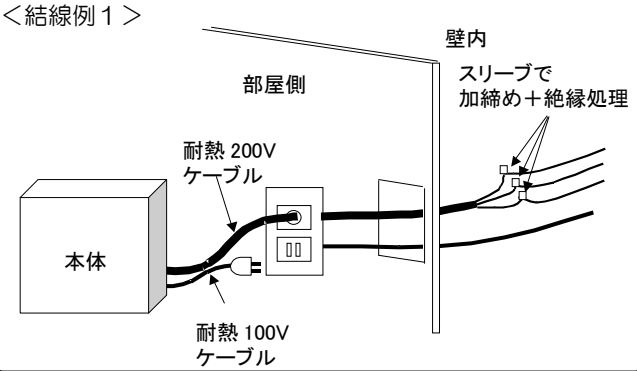
⚠ 注意

- 地震などによる転倒防止のため、ブラケットは壁下地補強材を施工している場所に取付けてください。
- 壁下地補強材厚みは、12mm 以上の合板もしくは同等以上の強度を持つものとしてください。

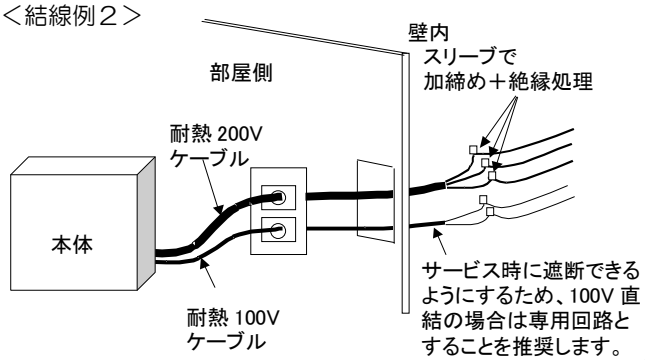
⚠ 注意

- 設置時には、ブレーカーを「切」にしてください。
- ２００Ｖケーブルの結線はコンセントなどを使用せず、直接接続で行なってください。（内線規程）
- 配線接続後は、全ての端子台を増し締めしてください。

＜結線例１＞

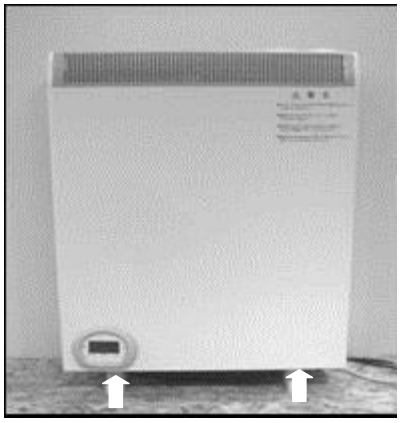


＜結線例２＞



※電源ケーブルの接続はジョイントボックス内で行ってください。
※コンセントカバーを使用する場合は、結線をする前に耐熱ケーブルにカバーを通してください。

7 本体下部のフロントパネル固定ネジ２本を取外します。



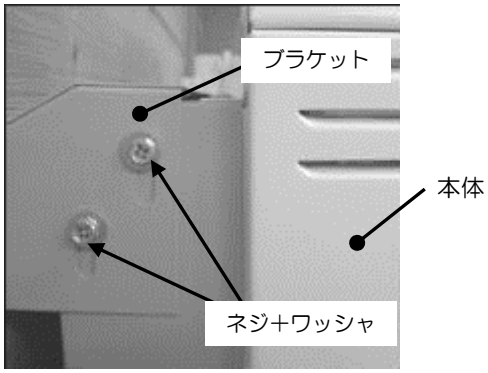
フロントパネル固定ネジ

8 フロントパネル下部を手前に引き、フロントパネル上部を持って引き上げます。



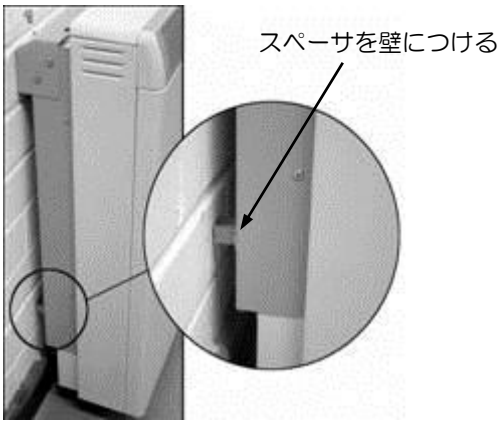
※ フロントパネルと内部のパネルの間に挟まっている発泡スチロールは、輸送中の保護用のものです。廃棄ください。

9 本体とブラケットを仮固定します。（左右２箇所ずつ）



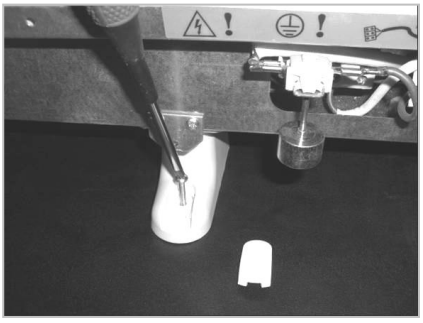
※ 4で外したネジとネジセット内のワッシャを使用します。
※ レンガを積み終わるまでは、ネジを完全に固定しないでください。本体への負担となります。

10 スペーサを壁に付け、壁に対して平行になるように本体を位置決めします。



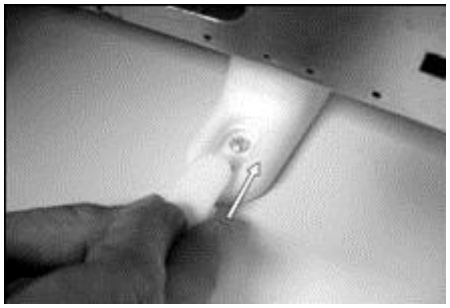
※ 位置決めした後は、本体を動かさないでください。

11 付属の床固定ネジを使用して、脚を床に固定します。

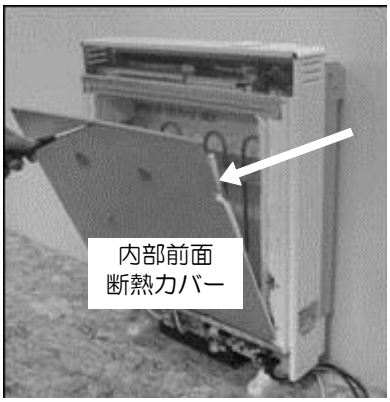


※ WME 712JW タイプは、右側の脚のみの固定となります。

12 付属の脚キャップを脚の先に差込みます。

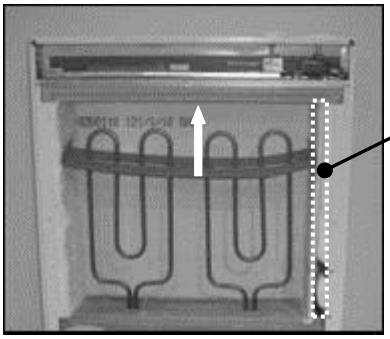


13 内部前面断熱カバーのネジを全て取外し、内部前面断熱カバーを開けます。



※ カバーには断熱材が付いていますので、破損させないように注意してください。

14 ヒーター保護用のダンボールを上方へずらしながら取外します。

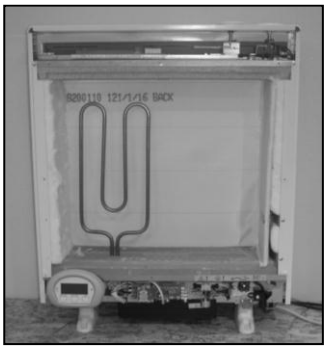


⚠ 注意

上図の内部断熱材（マイクロサーム）は、取り除かないでください。マイコン型は、この断熱材を介して蓄熱量を検知しています。取り除くと、蓄熱センサーの破損または蓄熱不具合の原因になります。
また、ヒーター保護用のダンボール取り外しの際は、断熱材を破損させないように注意してください。

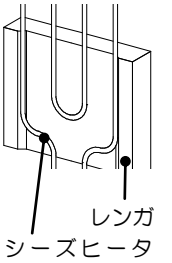
レンガ積込み作業

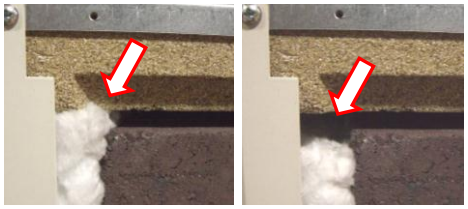
1 レンガを積込むために、シーズヒーターを１本取外します。（シーズヒーター下の端子台上部のネジ２本を緩めて、シーズヒーターを上に持ち上げて取外します。）



＜取出すシーズヒーターの位置＞
712JW：右側
718JW：中央
724JW：中央右

2 最初に奥下段へ、レンガの窪みがシーズヒーター側を向くように設置します。（718J、724J は両端のレンガを積んだ後に中央部のレンガを積みます。）上段も同様に積みます。
※レンガ積み込み時、断熱材間に隙間が無いか確認してください。





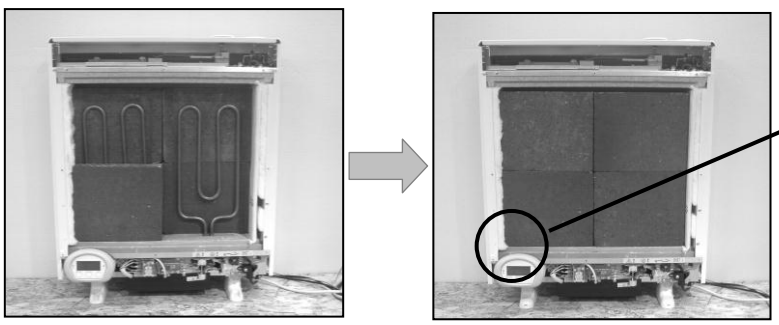
○：隙間無し　×：隙間有り

⚠ 注意

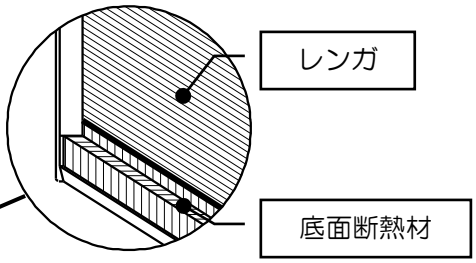
レンガ積み込み時に、断熱材が下方向にズレ、隙間ができる場合があります。その際は、断熱材同士に隙間が無くなるよう寄せ上げてください。隙間があると内部の熱が漏れ、本体表面が高温になる場合があります

レンガ設置中や設置後は、本体とブラケットを仮固定しているネジを絶対に外さないでください。本体が不安定になり、転倒するおそれがあります。

3 取外していたシーズヒーターを再び取付けます。（1と逆の要領で、しっかり固定します。）
その後、レンガの窪みがシーズヒーター側を向くように手前のレンガを積みます。



＜レンガ使用数＞
712JW：８個　718JW：12 個　724JW：16 個



⚠ 注意

底面断熱材にレンガの前面が合うようにレンガを積んでください。内部の熱が漏れ、本体表面が高温になる場合があります。

レンガ積込み作業の後

1 内部前面断熱カバーを取付けます。
（全てのネジを確実に固定します。）



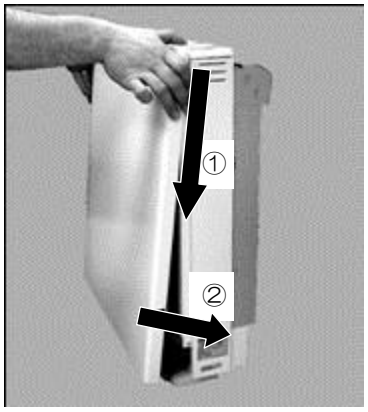
※端子台も全て増し締めします。
※レンガの積込みが終わりましたら、配線スペース及び温風吹出しスペースの清掃をしてください。

2 蓄熱・放熱コントローラーがスムーズに回るか確認します。

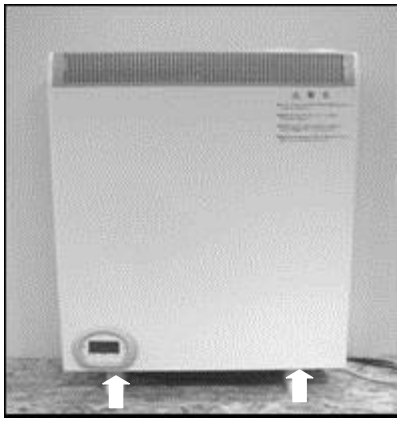


※放熱コントローラーを『１』に設定し、内部ダンパーが閉じているかを、次に放熱コントローラーを『6』に設定し、内部ダンパーが開いているか確認します。
※機構上の違いのため、蓄熱・放熱コントローラーの回り具合に差がありますが、異常ではありません。

3 フロントパネルを取付けます。

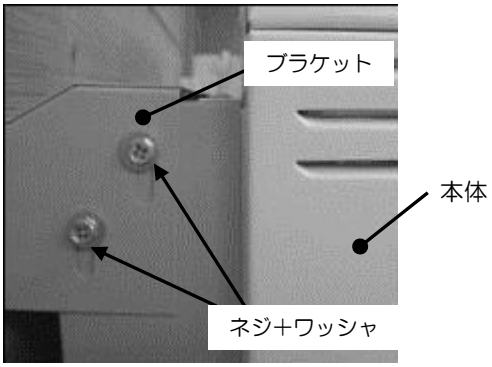


4 フロントパネル固定ネジ２本を取付けます。



フロントパネル固定ネジ

5 仮固定していた本体とブラケットを、しっかりとネジ止めします。

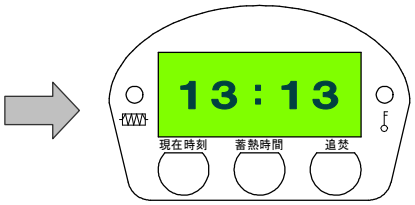


試運転

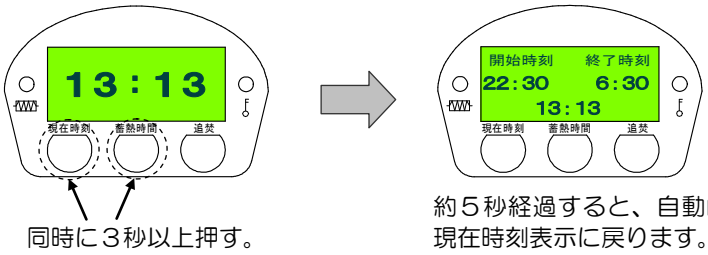
●需要家様への引渡し前に、必ず試運転チェックを行ってください。

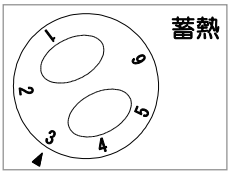
●湿気及びにおいとりのため、需要家様引渡し前に十分換気しながら、必ず蓄熱運転してください。

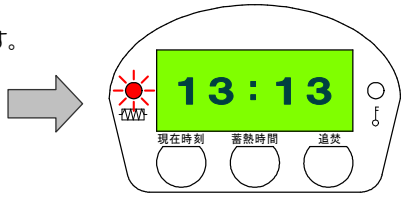
●需要家様引渡しに際して、本体に同梱してある「取扱説明書」をお渡しの上「コントローラー部分の説明」「使用方法」について説明してください。

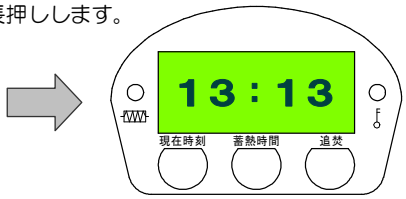
	試運転手順	内容
1	絶縁抵抗の測定	**電気用品安全法の技術基準に基づき、絶縁抵抗が１MΩ以上あるか確認してください。** ※ 使用開始時や長時間使用していなかった場合は、蓄熱レンガ・断熱材・シーズヒーターの吸湿により絶縁抵抗の減少（０．２MΩ以下）が起きたり、運転開始後数時間でブレーカーが作動するなどの現象が起こる可能性があります。 このような場合は、正しく結線されていること、蓄熱レンガ・断熱材・シーズヒーターを乾燥させ絶縁抵抗が回復している事を確認後、再度通電をしてください。 ※ 通電直後にブレーカーが作動する場合は、結線の誤りです。再度配線図を確認して結線をやり直してください。
2	設定確認	**①１００Vブレーカーを「入」にしてください。** **②現在時刻の設定をしてください。** ※時刻は２４時間表示です。 【例】７時００分から１３時１３分に合わせる場合。 １）現在時刻ボタンを３秒以上押します。  「時刻設定」の表示が現れ、「時」部分が色反転します。 ２）▲・▼ボタンを押して「時」を調整し、OKボタンを押します。  「分」部分が色反転します。 ３）▲・▼ボタンを押して「分」を調整し、OKボタンを押します。  現在時刻が表示されます。 ※設定の途中で１分間何も操作が行われなかった場合、現在時刻表示に戻ります。 現在時刻に戻る前にOKボタンを押した内容は、以下のようになります。 「時」のみOKボタンで確定 ・・・・・・・・・・キャンセルされます。 「時」「分」共にOKボタンで確定 ・・・・・・キャンセルされません。 ※ 停電中は、バックアップ時間（２年間）を超えた場合、時刻設定は消去されてしまいます。（２年間以内であれば、時刻設定は保護されます。）ただし、他の設定はすべて保護されます。 **⚠ 注意** 時刻の設定は、間違いのないように行ってください。電気代が高くなったり、蓄熱されないことがあります。

	試運転手順	内容
2	設定確認（続き）	**③蓄熱開始時刻・蓄熱終了時刻の設定をしてください。** 例】蓄熱開始時刻を２２時３０分、終了時刻を6時30 分に設定する場合。 １）蓄熱時間ボタンを３秒以上押し続けます。  「蓄熱時刻」の表示が現われます。 ２）「設定」ボタンを押します。  「開始時刻」の表示が現われます。 「時」部分が色反転します。 ３）▲・▼ボタンを押して、蓄熱開始時刻の「時」を設定します。  時刻(時)を調整します。 ４）「OK」ボタンを押します。  「分」部分が色反転します。 ５）▲・▼ボタンを押して、蓄熱開始時刻の「分」を設定します。  時刻(分)を調整します。 ６）「OK」ボタンを押します。  「終了時刻」の表示が現われる。 「時」部分が色反転する。 ７）▲・▼ボタンを押して、蓄熱終了時刻の「時」を設定します。  時刻(時)を調整します。 ８）「OK」ボタンを押します。  「分」部分が色反転します。 ９）▲・▼ボタンを押して、蓄熱終了時刻の「分」を設定します。  時刻(分)を調整します。 １０）「OK」ボタンを押します。  「蓄熱時刻」の表示が現われます。 １１）「戻る」ボタンを押します。  現在時刻表示に戻ります。 ※設定の途中で１分間何も操作が行われなかった場合、現在時刻表示に戻ります。 （現在時刻に戻る前にOKボタンを押した内容は、以下のようになります。 「時」のみOKボタンで確定 ・・・・・・・・・キャンセルされます。 「時」「分」共にOKボタンで確定 ・・・・・・キャンセルされません。） ※初期設定は、蓄熱開始時刻 23:00、蓄熱終了時刻 07:00 に設定されています。 ※蓄熱時間の設定は、各種電力メニューに合わせて適切に設定してください。

<table>
<tr><th></th><th>試運転手順</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>2</td><td>設定確認（続き）</td><td>※現在時刻ボタンと蓄熱開始ボタンを同時に３秒以上押すと、設定されている
蓄熱開始時刻と蓄熱終了時刻が表示されます。


同時に３秒以上押す。
約５秒経過すると、自動的に
現在時刻表示に戻ります。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>蓄熱動作確認</td><td>①２００Ｖブレーカーを「入」にしてください。
※深夜電力契約などでタイマーが「切」になっている場合は、「入」にしてください。
※２００Ｖ端子（ＴＥ１端子）のＬ－Ｎ間の電圧を測定し、２００Ｖが通電されているか確認
してください。
②蓄熱量を設定します。
蓄熱コントローラーのダイヤルを「３」に設定します。
※「３」は設定蓄熱量４０％に相当します。


③追焚動作を確認します。
<u>追焚の開始</u>
追焚ボタンを１秒以上長押しします。


蓄熱ランプが
赤く点灯します。
<u>追焚の解除</u>
追焚中に、追焚ボタンを１秒以上長押しします。


蓄熱ランプが
消灯します。
④２００Ｖ端子（ＴＥ１端子）の電流を確認します。
<table>
<tr><td>型番</td><td>WME 712JW</td><td>WME 718JW</td><td>WME 724JW</td></tr>
<tr><td>定格電圧</td><td colspan="3">単相ＡＣ200V</td></tr>
<tr><td>定格消費電力</td><td>1,500W</td><td>2,250W</td><td>3,000W</td></tr>
<tr><td>定格電流</td><td>7.5A</td><td>11.25A</td><td>15A</td></tr>
</table>
⚠ 注意 蓄暖が通電中、通電直後には高温部に触れないでください。
やけどのおそれがあります。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>終了</td><td>試運転終了後、暖房器を長時間お使いにならない時は、
①放熱コントローラーを「１」にしてください。
②蓄熱コントローラーを「１」にしてください。
③２００Ｖブレーカーを「切」にしてください。
※100V 電源は入れたままとしてください。
（バックアップ電池の消耗を低減するため。）</td></tr>
</table>